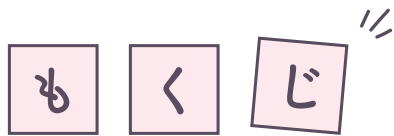


みんなの

ルールメイキング

宣言





RULE MAKING

P6 はじめに

P4 **ルールメイキング宣言**

“自分たちのルールは、自分たちで話し合い、
自分たちでつくる。”

P5 **校則・ルールの制定や見直しを進めるうえで前提にしたい 3つの原則**

P6 **ルールメイキングを進めていくうえで大切にしたい 9カ条**

P9 「ルールメイキング宣言」 3原則解説

熊本大学教育学部 准教授 苫野 一徳

P10 **生徒 × 先生 クロストーク**

P15 **ワークショップのススメ**

古瀬ワークショップデザイン事務所 古瀬 正也

P22 **完成までの制作過程**

P23 **宣言制作にあたって**

P24 **制作**

はじめに

「みんなのルールメイキング宣言」は、ルールメイキングに関わるすべての人が立ち帰ることができる指針をまとめた宣言です。

令和3年6月、文部科学省は児童生徒の実情や保護者の考え方などを踏まえて校則を絶えず積極的に見直すことを促す文書を出しました。文書は、校則の見直しに児童生徒が参加することで、校則への理解を深めたり、主体性を培う機会にもなるとしています。

大人にとっても子どもにとっても、これまで当たり前として継承されてきたことを変えていくということは、とても勇気のいることです。なぜなら、ルールを変えた方がいいと思っている人もいれば、変えるべきではないと思っている人もいて、両者には、どちらにも大切にしている考え方があるからです。

しかし今、社会も大きく変化しています。子どもたちを取り巻く環境も、大きく変わりました。そんな現在、「校則」も「学び方」も「カリキュラムのあり方」も変わっていくときにきています。

学校をよりよい学びの空間にするために、慣例や校則を見直す取り組みをはじめた生徒たちや先生たちを応援したい。そんな想いで、「みんなのルールメイキング宣言」をつくりました。

(認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキングプロジェクト事務局)





前文

みんなのルールメイキング宣言

自分たちのルールは、
自分たちで話し合い、
自分たちでつくる。

学校は、民主主義社会を支える、最も重要な土台となる場所です。


「自分たちの社会は自分たちでつくる」が民主主義社会の原則であるならば、学校もまた、「自分たちの学校は自分たちでつくる」機会を、生徒・先生・保護者などの関係当事者に十分に保障する必要があります。

我が国の教育基本法は、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」を育むことを教育の目的としています。それはすなわち、他者の自由を認めることのできる、自由で自立した市民の育成です。

この教育の「最上位目的」を達成するためにこそ、私たちはルールメイキングに取り組めます。

ルールは、一人ひとりの自由や多様性を守り、認め合うために存在するものです。立場や価値観などを異にする人たちが、互いを尊重し、対話を重ね、納得解をつくり合っていく。そんな力を身につけることは、生徒がこの社会を生きていく上でも、きわめて重要なことであると私たちは信じています。

だからこそ、校則・ルールのもとで学校生活を送る生徒自身の参画機会を保障しながら、生徒はもちろん、先生や保護者や地域の方など関係する人たちが、校則・ルールについてともに対話し、見直し続けていくことを、私たちはここに宣言します。



校則・ルールの制定や見直しを

進めるうえで前提にしたい

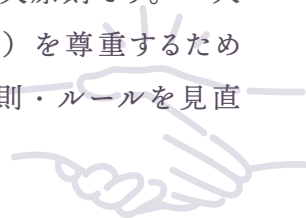
3つの原則

1

一人ひとりの
尊厳を大切に。

個人の尊重

憲法が定める「個人の尊重」は、ルールメイキングにおける大原則です。一人ひとりの尊厳（権利）を尊重するためにこそ、私たちは校則・ルールを見直し続けます。

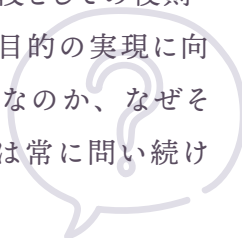


2

「そもそも何の
ための学校か」
を最上位に。

最上位目的との整合性

校則・ルールは、教育基本法が定める教育の最上位目的と論理的に整合性があるべきものです。手段としての校則・ルールが、その最上位目的の実現に向けて本当に有効・妥当なのか、なぜそう言えるのか、私たちは常に問い続けます。

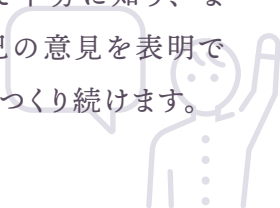


3

学校は校則を
公開し、その制定・
改廃への生徒の
参画を保障する

公開原則と
意見表明権の保障

学校は、公の性質を有することから、校則を公開するとともに、その制定・改廃に関して「児童の権利に関する条約」が定める生徒の「意見表明権」を保障する社会的責任を持ちます。関係者が校則・ルールについて十分に知り、また生徒が安心して自己の意見を表明できる機会を、私たちはつくり続けます。



校則・ルールの制定や見直しを

進めるうえで大切にしたい

9 カ条

1 一人ひとりが安心して居られ、 声に耳を傾け合える環境づくり

心理的
安全性

まずは、誰もが安心して居られる、自由に声を発せられる—そのような環境や関係性をつくっていくことが大切です。一人ひとりの声が尊重される土壌があってこそ、人は安心して、感じたことや思ったことを言えます。

2 疑問をもった 「私」からはじめる

発議の
権利

「何か変だな...」「ちょっと違和感があるな...」と、校則・ルールについて疑問をもった「私」から、ルールメイキングは始まります。生徒・先生・保護者問わず、関係する人であれば、誰もが声をあげる権利があります。まずは、身近にいる人に勇気をもって話してみましょう。

3 「なぜ、この校則・ルールが 存在するのか」を確認する

制定の根拠・
背景の確認

どんな校則・ルールにもそれが生まれてきた経緯があるものです。「なぜ、この校則・ルールが存在するのか」に目を向けてみることで、それらがつくられた背景や根拠を知ることができます。まずは、確かめてみましょう。

4 固定観念にとらわれない

前提の
再考

校則・ルールの見直しを進めていくと、さまざまな固定観念があったことに気づかされます。「中高生らしさ」「〇〇学校らしさ」などもその一つです。固定観念にとらわれず、前提を問い直し続けることが大切です。

5 目的にかなう手段（校則・ルール）を論理的に提案する

目的
合理性

校則・ルールは、何らかの「目的」を実現するための「手段」です。その「目的」がそもそも妥当であるのか、また「目的」に照らして「手段」が妥当といえるのか、十分に吟味を重ね、提案をつくる必要があります。

6 論点を明確にして、対話でみんなの納得解をつくる

対話的な
ルールづくり

先生の中にも、生徒の中にも、さまざまな意見があります。考えや価値観がぶつかる時には、対立する論点を明確に整理することが重要です。対話の中で、異なる意見の背景を深く理解し合い、よりよい納得解を見つけていきましょう。

7 関係者が取り組みを 見えるようにする

プロセスの
可視化

校則・ルールは、当事者抜きでつくることや、一部の人だけで勝手に決めることがあってはなりません。「今ここにいない人たち」のことも考えながら、取り組みの様子をどう発信していったらよいのかを考えていきましょう。

8 できた校則は公開する

情報の
公開

できた校則は、学校外にも公開することが必要です。学校の校則を社会に開いていくことで、見直しに向けた対話の機会にもつながります。また、こうした情報公開は、これからその学校に通いたい人にとっても大切です。

9 一度つくった校則・ ルールを見直し続ける

継続性と改定手続き
の制度化

よりよいルールは、その時々当事者や関係者が、しっかり納得できるものである必要があります。一度つくればよいものではなく、常に見直し続けることが大切です。また、校則・ルール改定の手続きを明文化し、制度化していく必要があります。

「ルールメイキング宣言」3原則解説

法に基づく 3つの原則を共有し 根拠あるルールづくりを

熊本大学教育学部 准教授
苦野 一徳



ルールとは、本来、自由を縛るものではなく、お互いの自由を守るために、私たち自らが作り合っていくものです。前文には、その民主主義の大原則が込められています。

学校は公の機関です。ですから、独自のルールを定めるに当たっては、それが公教育の最上位目的から逸脱しないように注意深くあるべきです。

3つの原則では、校則を法体系の下で作っていくために、憲法、教育基本法、児童の権利に関する条約の3つに準拠することを提言しています。

1つ目の「個人の尊重」は、憲法の最も重要な事項です。言うまでもなく、憲法は国民から国家権力へ宛てたものであり、公務員が守るべき大原則でもあります。

2つ目の原則は、校則が教育基本法に示された教育の目的と整合性があるか、またその目的達成のための手段として有効・妥当かをしっかり検討しようというものです。

3つ目の「公開原則」および「意見表明権」は、校則は、入学を考える生徒があらかじめ知っておくべきであるという原則とともに、児童の権利に関する条約を遵守する必要性を示したものです。

ルールメイキングの大前提として、この3つの原則をみんなで共有していきましょう。

1

一人ひとりの
尊厳を大切に。

個人の尊重

2

「そもそも何の
ための学校か」
を最上位に。

最上位目的との整合性

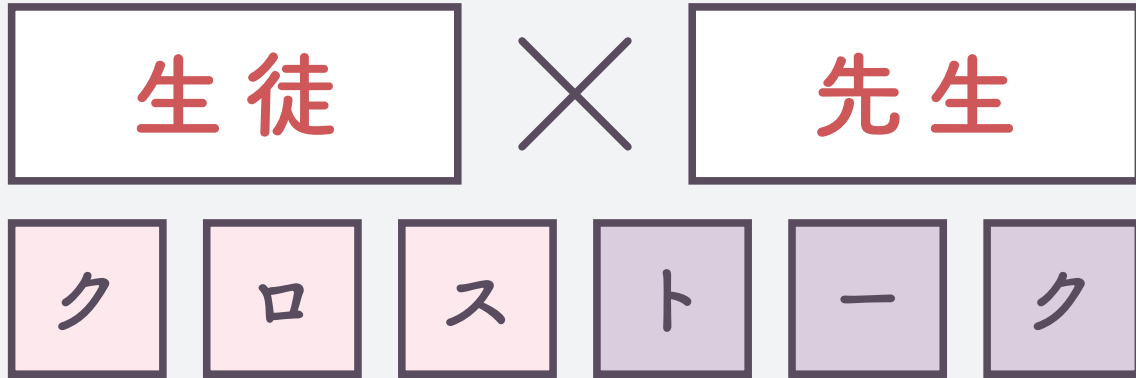
3

学校は校則を
公開し、その制定・
改廃への生徒の
参画を保障する

公開原則と
意見表明権の保障

CROSS

FEATURE



実践から生まれた みんなのルール メイキング宣言

ルールメイキングに取り組んできた生徒・先生・サポーターが、対話的なルールメイキングについて振り返ります。

実践から生まれたルールメイキング宣言がどのような場面で指針となるのかを、クロストークでお届けします。



TALK



生徒会顧問

山村 向志先生



高校3年生

田畑 希乃羽さん



高校3年生

児島 早苗さん

千葉県立姉崎高等学校

生徒

×

先生

FEATURE

ク ロ ス
ト ー ク

ルールメイキングに取り組んでみて

対話を重ね、生徒と教員の信頼関係を築く

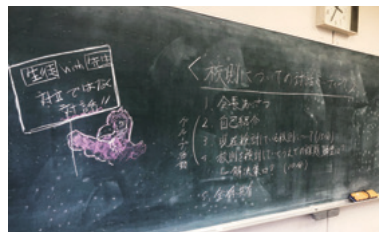
山村 姉崎高校は、校則を厳密に運用することで荒れた学校を立て直したという歴史があります。時代が変わり、生徒が変わり、落ち着いた今でも変わらず校則が厳しいことで有名でした。

田畑 細かい決まりがたくさんあります。規定のスカート丈が長いので、自転車に絡まるとか、ロッカーを開けるのにしゃがむと裾を踏まれるとか、不便な面がたくさんありました。それに、ダサい。電車で、他校生の視線が痛いと感じることもあって、このままでは過ごづらいな、と思っていました。

自分たちをもっと
信じてほしい

山村 困難だった時期を知っている先生方もいるので、ルールメイキングプロジェクトに慎重論を唱える先生はもちろんいました。

田畑 生徒に不便だと思う校則についてのアンケートを取ると同時に、先生方とは直接対話をしました。やはり「学校全体に緩み生まれるのでは？」という意見や、「今も守っていないのに、校則を変えてどうするの？」という声を聞きました。



姉崎高校では、3日間かけて生徒と先生との対話会を実施。キーワードは“対立ではなく対話”

山村 メンバーがすごいのは、そういった否定的な意見を聞いても「こんな意見を聞いて嬉しい」という反応だったこと。より良い校則を作っていくための材料、と前向きに捉えていたことです。思うように進まない時も「先生にもこういう事情がある」と考えられるようになった。周りのことを考えることができて、大人以上に大人だな、と思いました。

田畑 各クラスでも生徒会メンバーがファシリテーションをして「校則を変えた時に先生から出る不安は何か、その不安をどう解消していくか」という話し合いをしました。

山村 その後、先生たちに言われた

のが、校則を変えたら「緩くなって良かった」で終わると思っていただけ、生徒たちはちゃんと考えていることが分かった、ということです。「前に戻ってしまうのではないかと心配するのはわかる、でもそんなことない、自分たちをもっと信じてほしい」という声を聞いた教師は、生徒を信じなければいけませんよね。

次の課題は改訂の
手続きを整えること

田畑 今回、スカート丈と前髪の規定を変えることができましたが、まだ改訂のための手続きが決まっていないという課題があります。なので、来年度に向けて、校則検討委員会の立ち上げを検討しています。図書委員会とかと同じような位置付けで、メンバーや具体的な形はまだ考えているところ。新しく入る1年生にも、考え方や思いをしっかりと伝えて、形だけではなくて気持ちも受け継いで、プロジェクトを続けていってほしいです。



生徒と先生の挑戦は、これからも続く



生徒

先生

FEATURE

ク
ロ
ス
ト
ー
ク

高校3年生

山木 結衣さん

副校長

安田 馨先生

安田女子中学高等学校

ルールメイキングに取り組んでみて みんなが幸せになるルールをつくる

山木 校則は先生たちに与えられたもので、自分たちが何か言っても変わらない、諦めて触れないようにする。私だけでなく、ほとんどの生徒がそう考えていると思います。最初に先生からルールメイキングプロジェクトに取り組まないかと言われた時には、校則が厳しいことで有名なうちの学校が?!と半信半疑でした。

安田 先生方に話を聞くと、見直していいという意見も、学校として大事にしていることは変えるべきではないという声もありました。でも、生徒はやりたいと言っている。「**生徒が考えて、学校として受け入れられるものであれば変えよう**」と合意形成ができたのでプロジェクトをスタートしました。

罰則規定は ある方がいい？ ない方がいい？

山木 まずやったのは、生徒会で話し合っただけで、9つの校則について生徒にアンケートを取ることです。見直したいという声が多かったのが3つの禁止事項「情報端末機器の持ち込み」「放課後の立ち寄り」「保

護者同伴でない」と許可されない場所への立ち入り」です。それぞれ見直したくないという声もあって、違う意見を持つ人たちのことを考えられるようになりました。

安田 **最初の話し合いで、先生や保護者も含め「みんなが幸せになるルールを作ろう」と決めたんですね。**それぞれの立場を理解しながら、どう変えたらいいルールになるのか模索する日々だったと思います。

山木 私は情報端末のチームで改定案を検討していて、最初は罰則規定も盛り込んでいました。でも、生徒が生徒を罰するのは、自分たちの気持ちも良くないし、本当にそれで「みんなが幸せになる」のか。プロジェクトの結果、携帯電話を持ち込めるようになりましたが、使い方については、まだ課題があると思っています。



アンケート回収ボックスを設置して、新ルール案について生徒の意見を集めた



プロジェクトを通しての学びを対話的に振り返った

安田 学校も罰するために校則を定めたわけではありません。ルールがシンプルになるとグレーゾーンが増えて、単純に「ダメなものはダメ」という指導はできません。では、どう声かけしていくか。**先生たちが「なぜ?」「どうしてダメなんだっけ?」とそもそもに立ち返って、生徒と対話するようになりました。**

お母さんになっても 続いているといいな

山木 プロジェクトは2期目に入り、指定マフラーの自由化を目指しています。情報端末についても課題を話し合っています。でも、目的は校則を変えることではなくて、自分たちで自分たちの学校を良くしていくこと。ゆっくりゆっくり考えながら取り組んでいます。**私は、自分がお母さんの年代になっても、子どもたちがこのプロジェクトに取り組み続けていたらいなと思っています。**



首席

大達 雄先生

中学3年生

中村 弥来さん

生徒

×

先生

FEATURE

ク ロ ス

ト ー ク

泉大津市立小津中学校

わたしたちにとってのルールメイキング宣言 「みんなで創る」が学校全体に広がった

中村 小津中学校では生徒会と有志の生徒、20人ぐらいが“ルールメイカー”として活動しています。最初のミーティングで「生徒の生徒による生徒のための校則」というコンセプトを決め、制服とiPadの使い方のルールメイキングをしてきました。

大達 本校は「みんなが安心、みんなで創る、あなたが輝く学校」を掲げています。ルールメイキングだけではなく、行事ごとに生徒のいろいろな提案が実現したりして、「みんなで創る」がすごく進んだ1年だったと思います。

たくさんの疑問を重ねていった

大達 ルールメイキングの9カ条を見ると、まさにこうだったな、というんな場面を思い出しますね。例えば「**固定概念にとらわれない**」。式典や入学式では制服を着るのが当たり前、と思っていたけれど、ほんまに？何でなんだっけ？と考えていくと制服である必要はない。

中村 私は「**疑問をもった『私』からはじめる**」がその通りだった、と思います。制服についても、みんなが



プロジェクトキックオフの様子

疑問に思ったことをそのまま口に出して、賛成／反対とかでなくていろいろな角度からの意見がたくさん出てきた。いつも疑問を持って、疑問に疑問を重ねていった感じです。

大達 そうしているうちに、どんどん考えが柔軟に、合理的になっていきましたね。

中村 みんな頭が柔らかくて、それがすごいなって。固定概念をはがすような考え方ができるようになったと思います。

自分の発言で学校が変わる手応え

大達 意見を言ってもいい、という雰囲気も広がってきたと思います。2年生の国語の授業で、校則に関する意見文を書く授業をした時には、本気の、リアルな文章がたくさん提出されました。ある生徒の、スピー

チの授業での「学校に自習室を作りたい」という声を受けて、図書室を自習室として使えるようにもなりました。自分の発言で学校が変わるかも、という実感を持つようになっていのではないのでしょうか。

中村 3回やった全クラス会議も、「ああしてほしい」「こうしてほしい」ではなく、こうしたらいいと思う、という意見が増えていきました。生徒だけでなく、保護者も自分ごととして、関心を持ってくれる人が増えたと思っています。

大達 学校が、子どもたちの“世の中を変える力”に蓋をしていることがあります。校則の細かいところよりも、生徒たちが自分たちの思いを実現できない状況の方を変えることが大事。ルールメイキングに関心を持っている先生方には、小さなことを心配せず、自分たちで議論し、まわりを変えていくことの価値を知ってほしいと思います。生徒に任せるとちゃんと議論をするし、その手応えを掴んで学校全体が変わってきたと思っています。



新ルール案について学校運営協議会との対話

中高生メンバー
千葉県立成田国際高等学校
藤田 崇都さん



ルールメイキングサポーター
弁護士
真下 麻里子さん



中高生



サポーター

FEATURE



みんなのルールメイキング委員会メンバー

わたしたちにとってのルールメイキング宣言

学校を、関係者全員にとってより良い場所に

藤田 高校1年生の時、ツーブロックにしたら、先生から理由の説明がないまま「禁止」と言われ、校則を変えてやる!と息巻きましたが、何をどう変えればいいのかわからないまま過ごしていました。3年生になってから、ある友人との出会いをきっかけに「男子のむさくしい長髪は禁止」という校則を改正するよう、生徒会に意見書を提出したんです。

真下 「疑問をもった『私』からはじめる」ことをしたのが藤田さんなんですね。今はどんな活動をしているのですか?

藤田 意見書は出したものの、どう前に進めたらいいんだろう?と考えていた時、ルールメイキング委員会の中高生メンバー募集記事を見つけました。「対立を超え、対話によって納得解を見出す」ことが目的とされていて、対話か!と目から鱗でした。僕は生徒会所属ではないので個人で、校内で校則に

関するアンケートを取ったり、対話の場をつくろうとしています。

権利や尊厳が大切にされているか

真下 「対立」にネガティブなイメージを抱く人もいるかもしれませんが、対話は対立の手法の一つです。私は弁護士として、少数者がいかに訴訟をして闘って、権利を勝ち取ってきたかを学んできました。怒りは権利侵害をなくすための大切な原動力なのです。

藤田 反発もしましたが話を聞いてくれる先生もいました。実際、僕にきっかけくれた友人は、自分にぴったりくる髪型で過ごせない苦しさを、保護者を交えて先生と何度も話し合った結果、長髪が認められていました。でも友人が、校則違反なのになぜ?と見られるのが辛いと言うのを聞いて、生徒を守るべき校則によって、人権を侵害されている人がいることにも気づきました。それで「男子の長髪禁止」を変えようと思ったんです。

真下 本来、法や規則は個人の尊厳が守られるために存在します。藤田さんは校則の存在意義を検討するにあたり、「一人ひとりの尊厳を大切に」



きっかけくれた長髪の友人と藤田さん

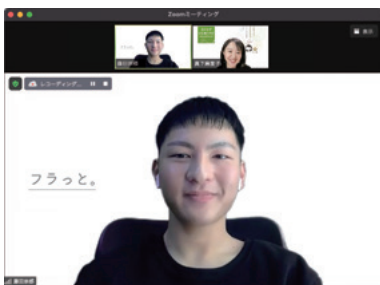
しているかどうか、という視点を持ったんですね。

「どうせ変わらない」を動かす制度を作りたい

藤田 校内アンケートで、校則に疑問を持つ人は多くても行動する人は少なく、理由は制度が複雑だったりして「どうせ変わらない」と思うから、ということがわかりました。僕はもうすぐ卒業しますが、卒業生、保護者、地域も含むルールメイキングのプラットフォーム作りを目指しています。

真下 普通の法律は改正手続きが明確ですが、校則はそうでないことが多いですね。「一度つくった校則・ルールを見直し続ける(継続性と改定手続きの制度化)」ことができれば、学校はよりフェアな場所になるでしょう。

藤田 そうですね。最初は校則を変えることに固執していたけれど、今は、学校を関係者全員にとってより良い場所にすることが最上位目的だと思っています。



オンライン対談の様子

WORK SHOP CASE 1



「みんなのルールメイキング宣言」

ワークショップのススメ

「みんなのルールメイキング宣言」とは、ルールメイキングに関わるすべての人が立ち帰れるような指針をまとめた宣言です。

ここでは、その宣言文を使ったワークショップ例を2つ紹介します。

「場づくりのポイント」を参考にして、ワークショップが有意義なものになるよう、ぜひ皆さんも実践してみてください。



WORK SHOP CASE 2

WORK SHOP CASE 1

自分たちが大切にしたいことを

考えるワークショップ



目的

「みんなのルールメイキング宣言」を使って、活動を進めていくうえで自分たちが大切にしたいことを考える。

所要時間 1時間程

人数 15人程

実施時期 活動初期

必要な備品（4グループの場合）

- ・模造紙：各グループ1枚ずつ（計4枚程）
- ・付箋（75×75mm / 1束100枚）：各グループ2束程（計8束程）
- ・印刷した「みんなのルールメイキング宣言」：参加者人数分

当日までに準備すること POINT 1

- ・「みんなのルールメイキング宣言」を印刷し、活動メンバーに配布する。
- ・活動メンバーは、事前にじっくりと読み込んでくる。
- ・読みながら、特に「共感したこと」「大切にしたいこと」に印をつけたり、下線を引いたりしておく。
- ・その他に「思うことや感じること」があれば、コメントを書き残しておく。



当日のプログラムの流れ

大きな流れ	時間	詳細
オープニング	5分	<ul style="list-style-type: none"> ● はじまりの挨拶 ● 今日の場の目的や流れの共有
ペアをつくる POINT 2	2分	<ul style="list-style-type: none"> ● ペアの組み方は、関係性に配慮する。 例えば、「近くに座っている人で組む」「くじ引きで組む」「学年別で組む」「自由に組む」など。
ペアで感想共有	10分	<ul style="list-style-type: none"> ● 書き残してきた印や下線やコメントをお互いに見せ合いながら、それぞれに感じたことや思ったことを共有する。 ● 印や下線やコメントの背後にあるものを聞き合う。
全体で共有	5分	<ul style="list-style-type: none"> ● ペアで話してみても「気づいたこと」や「面白いな」「大切にだな」と感じたことがあれば、全体にも共有する。
グループをつくる	3分	<ul style="list-style-type: none"> ● 3～4人でグループをつくる。（※4グループ想定） ● グループの組み方は、関係性に配慮する。 例えば、「ペアを合体させて組む」「くじ引きで組む」「学年別で組む」「自由に組む」など。
個人ワーク	5分	<ul style="list-style-type: none"> ● 「これからルールメイキングを進めていくうえで、特に私が大切にしたいことは？」について付箋に書き出す。 ● 1枚の付箋には、1つのことを書く。 ● ルールメイキング宣言を参考にしつつ、そこに書かれていないことも含めて「私」なりの観点で自由に書く。
グループワーク POINT 3	20分	<ol style="list-style-type: none"> ① 1人が付箋を1枚、模造紙の好きなところに貼り、理由も含めて説明する。 ② 近い内容を書いた人がいたら、近くにその付箋を貼って、同じように理由も含めて説明する。 ③ 近い内容がない場合は、①とは別の人が付箋を1枚、好きなところに貼っていく。 ④ 全ての付箋が貼り終わったら、全員で分類する。 ⑤ 似たものは線で囲って、分類名をつける。 ⑥ 最後に、グループの中で「特に大切にしたいこと」に大きな印をつける。
全体で共有	8分	<ul style="list-style-type: none"> ● 各グループから2分程で共有する。
クロージング	2分	<ul style="list-style-type: none"> ● 今日やったことを簡単に振り返る。 ● 次回の活動に向けての確認。

WORK SHOP CASE 1

自分たちが大切にしたいことを

考えるワークショップ



場づくりの3つのポイント

POINT 1 「非同期」でできることを考える

同じ時間・同じ空間で集まって行う場のことを「同期の場」と呼び、違う時間・違う空間で、それぞれに活動する場のことを「非同期の場」と呼びます。限られた時間の中で活動を進めていくには、「非同期の場」をうまく活用することも大切になります。ただし、準備が多くなりすぎても負担が増えてしまうので、そのバランスが重要です。

POINT 2 「誰と組むか」も一つのワークショップデザイン

「ペアをつくる」「グループをつくる」場面で【どのように・誰と組むか】は一つの場のデザインです。参加者の関係性に配慮しながら、例えば「もう少し異学年で混ざった方が良さそうだな」という意図があれば、異学年が混ざるように工夫しましょう。意図を持って手段を設計していくことがワークショップデザインです。

POINT 3 付箋は「近いもの」を「近く」に貼る

付箋を書いた人から自由に模造紙に貼っていく方法もありますが、時間のない場合には、あとから分類するのが大変になってしまうことがよくあります。書いた付箋はひとまず手元に溜めて、グループワークの時に1枚ずつ模造紙に貼っていくのが良いでしょう。その時、「近い内容」同士を「近く」に貼っていくことで、おのずと分類が進んでいきます。全ての付箋を出し切ったあとに、微調整しながら整理していくと、まとまりのある模造紙になります。

次の活動に向けて

このワークショップでは「グループでまとめる」までで終わりとなっていますが、もし全体でまとめていきたい場合には、次の活動で「全体でまとめる時間」をつくるのも一つです。

ただし、必ずしも「大切にしたいこと」を「全体でまとめる」必要がないこともあります。まずは、一人ひとりがこの活動を進めていくうえで「何を大切にしたいの

か」そのことが全体で分かち合われていることが大切です。無理にまとめなくても、お互いの考えが共有されていることが、それぞれの行動に影響を与えることがあります。

また、時折、思い出せるように、このワークショップで作成した模造紙を見返したり、どこかに掲示しておくのも有効です。

WORK SHOP CASE 2

活動の中間振り返り

ワークショップ



目的

「みんなのルールメイキング宣言」を使って、これまでのルールメイキングの活動を振り返り、これからの活動に活かす。

所要時間 1時間程

人数 15人程

実施時期 活動中期

必要な備品 (4グループの場合)

- ・模造紙：各グループ1枚ずつ (計4枚程)
- ・付箋 (75×75mm / 1束100枚)：各グループ2束程 (計8束程)
- ・印刷した「みんなのルールメイキング宣言・振り返りシート」：参加者人数分

当日までに準備すること

- ・再度、「みんなのルールメイキング宣言」をじっくりと読み直す。
- ・「みんなのルールメイキング宣言」振り返りシートを配布し、事前に記入しておく。



振り返りシートは P.20・21 をチェック ▶

当日のプログラムの流れ

大きな流れ	時間	詳細
オープニング	3分	<ul style="list-style-type: none"> ● 椅子を1つの円の形に並べて座る。 POINT 1 ● はじまりの挨拶 ● 今日の場の目的や流れの共有
一言チェックイン POINT 2	15分	<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返りシートの設問 (1) 【みんなのルールメイキング宣言を読み返してみ、率直に感じたことや思ったこと】 について1人1分以内で短く端的に一言ずつ言う。
グループをつくる	2分	<ul style="list-style-type: none"> ● 3～4人でグループをつくる。(※4グループ想定) ● グループの組み方は、関係性に配慮する。 例えば、「くじ引きで組む」「学年別で組む」「自由に組む」など。
グループワーク①	10分	<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返りシートの設問 (2・3) に書き出したことをグループのメンバーに共有する。 ● 全員が10分以内に共有できるようにテンポよく進める。
個人ワーク	5分	<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返りシートの設問 (4) 【今後のルールメイキングの活動を「よりよく」していくために、どんな取り組みや工夫が必要だと思いますか?】 について、改めて、自分の意見やアイデアを付箋に書き出す。 POINT 3 ● 1枚の付箋には、1つのことを書く。 ● 自分の振り返りシートを参照しつつ、そこに書かれていないことも含めて自由に書く。
グループワーク②	15分	<ol style="list-style-type: none"> ① 1人が付箋を1枚、模造紙の好きなところに貼り、理由も含めて説明する。 ② 近い内容を書いた人がいたら、近くにその付箋を貼って、同じように理由も含めて説明する。 ③ 近い内容がない場合は、①とは別の人が付箋を1枚、好きなところに貼っていく。 ④ 全ての付箋が貼り終わったら、全員で分類する。 ⑤ 似たものは線で囲って、分類名をつける。 ⑥ 最後に、グループの中で「特に大切にしたいこと」に大きな印をつける。
全体で共有	8分	<ul style="list-style-type: none"> ● 各グループから2分程で共有する。
クロージング	2分	<ul style="list-style-type: none"> ● 今日やったことを簡単に振り返る。 ● 次回の活動に向けての確認。

WORK SHOP CASE 2

活動の中間振り返り

ワークショップ



場づくりの3つのポイント

POINT 1 「ワンサークル」は一体感を生む

一つの円になって座ると、不思議と一体感が生まれます。机を挟まないことで、全身がよく見えて、一人ひとりの存在感がより濃く感じられます。円には角がなく、対等で平等な雰囲気も漂います。大きな円の一部を自分が担っていることから「このメンバーの一員である」という気持ちも高まります。ただ、関係性によっては、いつも以上に緊張してしまうこともありますので、ある程度、知り合った上で、活動の中期以降に取り入れてもよいかもしれません。

POINT 2 一言チェックインの「順番」も一つのワークショップデザイン

一言チェックインの「順番」も場づくりの一つです。時間があまりない時には、「進行役の横に座っている人からぐるっと一周」や「最初の一人だけを募集して、その人からぐるっと一周」という方法もあります。後者では、ちょっとした緊張感や主体性を発揮する機会がつかれます。時間がある時には、「ぼつりぼつり話したい人からランダムに話していく」という方法もあります。「話し終わった人が次の人を指名する」という方法は、名前を呼び合う機会にもなるので、関係づくりにもなります。ひとえにこれが正解というものはないので、時間や関係性や意図の兼ね合いから「順番」を設計してみましょう。

POINT 3 「可視化」することで、思考が活性化させる

振り返りシートに書いていたことをわざわざ付箋に書き直すのは、意見を「可視化」させるためです。話し合っている言葉は次から次へと移り変わってしまうので、全てを覚えておくことは困難です。「可視化」させておくことで、記録としても残すことができます。また、それを見ながら話し合うことで、思考が活性化されることがあります。私たちは決して「頭」だけで考えているのではなく、「目」で考えているところもあるのだと思います。

次の活動に向けて

今後に向けての取り組みや工夫のアイデアがたくさん共有された状態で、このワークショップは終わることになっていますが、大切なのは「このあと」です。

出てきた意見やアイデアの中で「より有効だと感じられるもの」や「みんながやってみたいと思えるもの」が

あれば、実際にやってみましょう。

このワークショップの時間の中では、具体的に「何を・いつ」やるかまでは決めないので、もう少し時間が取れる場合には、次のアクションまで決めたり、次の活動時間で具体の話に入ったりしても良いでしょう。

このシートは「みんなのルールメイキング宣言」の観点から、自分たちのこれまでの活動を振り返り、今後の活動に活かしていくためのシートです。まずは「みんなのルールメイキング宣言」を改めて、じっくりと読み返してみてください。そのあとに、このシートに記入していきましょう。

1 「みんなのルールメイキング宣言」を読み返してみて、まず、率直に感じたことや思ったことは？（自由に湧いてくるままに書き出してみよう!）

2 自分たちのこれまでのルールメイキングの活動を振り返ってみて、「3つの原則」と「9ヵ条」の中で、「特にこれはできていた」と感じるものを○で囲って、その【理由】を書いてみましょう。

【3つの原則】1・2・3 【9ヵ条】1・2・3・4・5・6・7・8・9

【理由】

【3つの原則】1・2・3 【9ヵ条】1・2・3・4・5・6・7・8・9

【理由】

【3つの原則】1・2・3 【9ヵ条】1・2・3・4・5・6・7・8・9

【理由】

3 逆に、これまでの活動の中で、「特にこれはできていなかった」と感じるものを○で囲って、その【理由】を書いてみましょう。

【3つの原則】1・2・3 【9ヵ条】1・2・3・4・5・6・7・8・9

【理由】

【3つの原則】1・2・3 【9ヵ条】1・2・3・4・5・6・7・8・9

【理由】

【3つの原則】1・2・3 【9ヵ条】1・2・3・4・5・6・7・8・9

【理由】

4 今後のルールメイキングの活動を「よりよく」していくために、どんな取り組みや工夫が必要だと思いますか？（思いつく限り、書き出してみましょう!）

「みんなのルールメイキング宣言」

完成までの制作過程

STEP 01

宣言づくり

トークセッション

校則見直しに携わる生徒や先生、一般公募で集まった中高生有志メンバー、さまざまな専門分野の有識者サポーターとともに全6回に渡り、宣言に盛り込みたい内容を話し合いました。



STEP 02

宣言素案づくり

トークセッションの対話を元に、編集チームで宣言の土台となる素案をつくりました。できた素案について、トークセッションの参加者などからコメントをもらいました。

STEP 03

宣言完成版づくり

監修者・苦野さんともに対話を重ね、ルールメイキングに関わるすべての人が立ち帰れるような指針とは何か?という問いを考え続けました。

FINISH!

完成!!

みんなのルールメイキング宣言として、【前文・3つの原則・9ヵ条】が完成しました。



みんなのルールメイキング宣言 宣言制作にあたって

宣言づくりは、合意形成のプロセスそのもの

熊本大学教育学部 准教授

苦野 一徳

「ルールメイキング宣言」を作り上げるプロセスは、宣言に記した「大切にしたい9カ条」に基づく実践そのものでした。多くの中高生やサポーターが、この宣言づくりに関わってくれました。だからこそ、盛り込む内容や表現をめぐって、ぶつかり合うこともしばしばでした。でも、「よい宣言を作りたい」という「最上位目的」を共有し、ねばり強く対話を重ねることで、最終的に、皆が満足できる宣言を完成させることができました。対話を通じた合意形成とは、まさにこういうことなのだ。そう、身をもって学ぶことのできた、本当に意義深い経験でした。



こだわりながら、対話を続けていくこと

大阪国際大学短期大学部 准教授

古田 雄一

今回の宣言づくりの試みは、なかなかチャレンジングなものでした。ルールのあり方、見直しのあり方、目指したい対話のあり方など、さまざまな考えがあります。それでも、一人ひとりの言葉を丁寧に聴き、納得のいくものになるまでこだわりながら、模索を重ねてきたこのプロセス自体が、ルールメイキングの取り組みで分かち合いたい価値や考え方を具現化する挑戦でもありました。そうして生まれたこの宣言が、皆さんの対話や実践の始まりのきっかけになれば、嬉しく思います。

最後まで諦めずに、対話の姿勢を

古瀬ワークショップデザイン事務所

古瀬 正也

宣言文を作成するプロセスそのものが、まさに「対話的」だったなと思います。方向性が一緒でも、そこには十人十色の言葉の表現・選択があります。その背景には、その人が大切にしている価値観が根づいていて、みんなにとっての納得解をつくっていくことは、なかなか難しい作業でもありました。しかし、最後まで諦めずに言葉を尽くしていけば、必ず「より良き納得解」は見いだせるもの。ぜひ、みなさんも、最後まで諦めずに「対話の姿勢」で難局を乗り越えてください。



ルールメイキング宣言制作

監修： 菅野 一徳（熊本大学教育学部 准教授）
編集： 古田 雄一（大阪国際大学短期大学部 准教授）
古瀬 正也（古瀬ワークショップデザイン事務所）
冊子編集： 認定特定非営利活動法人カタリバ ルールメイカー育成プロジェクト
デザイン： 小野寺 真希（荒屋デザイン）
野澤 佑妃（luck-mook）
発行： 認定特定非営利活動法人カタリバ ルールメイカー育成プロジェクト
経済産業省「未来の教室」実証事業
発行年月日：2022年2月23日

「みんなのルールメイキング委員会」 メンバー一覧（五十音順）

サポーター

安部 芳絵さん（工学院大学教育推進機構 准教授）／ 内田 良さん（名古屋大学教育学部 准教授）
／ 勝野 正章さん（東京大学教育学部 教授）／ 讃井 康智さん（ライフイズテック株式会社 取締役 最高教育戦略責任者）／ 神野 元基さん（合同会社 LINKALL 代表）／ 末富 芳さん（日本大学文理学部 教授）
／ 瀬戸 昌宣さん（NPO 法人 SOMA 代表理事）／ 田中 麻衣さん（スウェーデン就学前教育学校 Guldklimpar 理事）
／ 菅野 一徳さん（熊本大学教育学部 准教授）／ 内藤 佐和子さん（徳島市長）
／ 中島 さち子さん（株式会社 steAm 代表取締役社長）／ 平井 聡一郎さん（株式会社情報通信総合研究所 特別研究員）
／ 真下 麻里子さん（弁護士／NPO 法人ストップいじめ!ナビ理事）
／ 安田 馨さん（安田女子中学高等学校 副校長）
／ 若新 雄純さん（株式会社 NEWYOUTH 代表取締役）
／ 今村 久美（認定 NPO 法人カタリバ 代表理事）

中高生メンバー

筑波大学附属坂戸高校 生徒会／ 熊本県立熊本農業高等学校 生徒会／ 安達 晴野さん（東京都立北園高等学校 3年）
／ 角谷 樹環さん（北海道中川郡幕別町立幕別中学校 3年）
／ 林 樟太郎さん（近江兄弟社中学校 2年）
／ 藤田 崇都さん（千葉県立成田国際高等学校 3年）
／ 藤田 星流さん（東京大学教育学部附属中等教育学校 6年）
／ まきさん（N 高等学校 3年）
／ 渡邊 すみれさん（平塚学園高等学校 3年）

実証事業校

泉大津市立小津中学校／ 大垣市立東中学校／ 大阪夕陽丘学園高等学校／ 駒場学園高等学校／ 四條畷学園中学校／ 自由学園中等科・高等科／ 千葉県立姉崎高等学校／ 栃木県立足利清風高等学校
／ ドルトン東京学園中等部・高等部／ ノートルダム女学院中学高等学校／ 山形県立遊佐高等学校



未来は、つくれる。

KATARIBA

Shape the Future



RULE MAKING

「ルールメイキング宣言」

プロジェクト公式サイト

